

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	T.I.	学部・学科	国際商学部
学 年	2 年生	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
プログラム名	ISIBM プログラム		
期 間	2024 年 7 月 31 日～ 2024 年 8 月 21 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

プログラム期間中の授業は Business Communications, Entrepreneurship, Service Management, International Business の 4 つに分かれており、それぞれの授業でその分野の専門の先生が講義を実施した。それぞれの先生の英語のアクセントに違いがあり、期間中で様々な英語に触れることができた。授業は午前 9:00~12:00 と 1 時間の昼食休憩を挟み、午後 13:00~16:00 というスケジュールをほぼ毎日こなした。先生によって異なるが基本的に 1 時間に 1 回休憩が入るため、ハードスケジュールではあるが、集中して講義を受けることができた。休憩時間が長いときには仲間と大学内にあるカフェにコーヒーを買いに行くこともあった。

授業は全体的に学生が発言する機会が多かった。先生が授業内容に関する考えや意見をかなり高頻度で先生が聞いてくる。今回のプログラムは約 24 名の参加者で 6 つの 4 人グループに分かれて講義を受けた。授業外課題はそこまで多くなく、課されたとしても翌日の授業で扱う資料に目を通しておくという程度だった。

プログラム全体で 5 回ほどプレゼンを行う機会があった。授業内で話し合ったりスライドを作ったりすることは難しかったため、授業が終わってからもプレゼンの準備に取り組むことが多かった。日本語ですら難しいプレゼンを英語でするのは非常に難しく、なるべく準備に時間を割いて本番に挑んだ。中にはプレゼンを効果的に実施する方法を学ぶ授業もあったため、そこで学んだ内容をなるべく活用するようにした。

最後の授業の際には期末試験が課された。出題範囲はこれまでの授業内容ですべて選択問題であった。授業内容を前日に復習しておけばそこまで苦勞することはなかった。試験時間は 1 時間 30 分で、途中退席可能だった。試験結果は最終日の修了式にて配布された。

プログラムの授業は日本の大学の授業スタイルとはほとんどすべて異なっており新鮮であった。私にとってこのプログラムが初めての海外で大きな挑戦であったが、英語でコミュニケーションをとることができたり、授業内容を理解できたりしたことは私の英語に対する自信につながった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

私はプログラムを通して、企業が海外進出する際に必要とされる調整やバランス、適切な人材採用の重要性に関する知識を身につけられたと考える。授業では映画や実際の企業の海外進出事例を通じて、異文化適応や市場環境への適応がいかに企業の海外進出の成功に影響を与えるかを理解した。具体的には現地の法規制や消費者のニーズに合わせた商品やサービスの研究開発などが挙げられる。また、多様なバックグラウンドを持つ人材採用と、ローカルだけでなくグローバルの観点も持ち合わせたリーダーシップも重要であった。また、文化の違いや価値観の相違を乗り越えるためのコミュニケーションの能力や柔軟性も必要となってくる。これにより現地の信頼関係を築き、結果的に持続可能なビジネスモデルを構築することが可能になる。さらに、本社と現地の間で適切なバランスをとることも長期的な成功を収めるための鍵であることが分かった。日本の授業で企業の海外進出についてここまで詳しく学ぶ機会はなかったため、非常に有意義な授業であったと感じる。私が3・4年時に所属するゼミは企業分析を実施することが多いので、こうした観点からも企業を分析できるように実践を重ねていきたいと思う。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前と後で感じたことは、とにかく一度挑戦してみないと分からないということだ。理由としては、事前のイメージや準備だけでは限界があると感じたからである。出発前や授業を受ける前は様々な準備をし、授業も何とかやっていけると思っていた。しかし、実際に英語の授業を受けたりプレゼンを行ったりするとほとんど自分の思い通りにはいかなかった。私の英語学習は実用的でなかったことやネイティブの先生の英語の話し方や表現の違いは、準備だけでは気づけず、実際に留学をしていなければ気づけなかったと思う。こうした経験を通じて、実際に挑戦して経験することの重要性を痛感した。今後は特に実際の行動や実践を重視して学んでいきたい。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今後の大学生活では、英語を自由自在に操れる能力を身につけることを目標として過ごしていきたい。理由としては、英語のスキルを高めることで国際商学部の学生としての視野がさらに広がると感じたからだ。今回のプログラムでは、国際商学部で学んだ内容と少し重なる部分があったが、英語で学ぶことでより深く理解することができた。また、英語での議論やプレゼンを通して、異なる視点や新しい知識に触れる機会が増え、学びの質が向上したと感じている。これからの大学生活では、英語での発信力やリサーチ能力をさらに磨き、グローバルな視点からビジネスを分析できる力を養いたい。将来的にはもう一度留学をして自分の英語力をためすことができたかと考えている。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	W.L.	学部・学科	国際商学部 国際商学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
プログラム名	ISIBM		
期 間	2024 年 7 月 31 日～ 2024 年 8 月 20 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は主に四つの部分に分かれており、それぞれ異なる先生が授業を行いました。Business Communication の先生が 1 人、Entrepreneurship の先生が 2 人、Service Management の先生が 2 人、International Business の先生が 2 人いらっしゃいます。先生にはカナダ出身の方だけでなく、中国やインド出身の方もおり、授業方法と文化の多様性が確保されています。授業は基本的に午前 3 時間、午後 3 時間の構成で進められます。授業ではグループワークやグループプレゼンテーションが多く、日本の大学の授業とは異なり、学生が主体的に参加し、先生が質問を投げかけ、学生が対話形式で授業を進めることが多いです。ただ聞くだけでなく、学生が自らの意見を発表する機会が多いため、より多くのことを学べるという印象を強く受けました。特に印象に残っているグループワークが二つあります。一つ目は、Entrepreneurship の授業で行われたもので、クラスを五つのチームに分け、各チームにクリップを配り、そのクリップをキャンパス内の学生やスタッフと何か異なる価値のある物に 5 回交換するというチャレンジでした。私たちのチームは、最初のクリップから始めて、シール、ガム、ペン、鉛筆、そして最終的に 2 ドルに交換することができました。最初はグループの皆が見知らぬ人に話しかけることに抵抗を感じましたが、実際に話しかけた人々は皆親切に対応してくれました。クリップから 2 ドルへの交換結果とそのプロセスの両方が非常に良い経験となりました。もう一つ印象に残っているグループワークは、Service Management の授業で行われたもので、五つのグループに分け、各グループがスターバックスや図書館など、学校内のさまざまな店舗に行き、客のふりをして店員に質問をするなどして、店員のサービス意識をテストする課題でした。私たちのグループは図書館に行き、まず受付のスタッフに短期交換留学生が小さな図書館で本を借りられるかどうかを尋ねました。スタッフは最初に私たちが学校の学生証を持っているかどうかを確認し、否定的な回答を受けた後、ID またはパスポートを提示すれば、無料で図書カードを作成してくれると提案してくれました。また、図書館に日本語の本があるかどうかを尋ねた際には、スタッフは積極的に地図を見せて、どの本棚にあるのかを教えてくださいました。全体的に、スタッフの態度とサービス意識は非常に良かったです。この現地活動を通じて、サービス意識の重要性を深く理解することができました。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

Business Communication の授業の中、異なる広告を分析することで、どのようにして発表の中でより効果的に視聴者に自分が伝えたい内容や感情を表現できるかを学びました。これらの広告には、日本、カナダ、中国など様々な国の広告があり、その分析の過程で広告自体だけでなく、その広告が属する国の市場や文化についても深く理解し、分析することができました。学生は各国から集まっているため、先生は各国の学生に広告の背後に隠された文化的現象を説明させることもあります。また、International Business の授業では、先生は多国籍企業が海外市場を開拓する際に注意すべき現象について教えてくれました。講師は事例分析や映画分析を通じて、多国籍企業が海外市場を開拓する際に直面する人材の選択、現地戦略などの問題と、必要な対策について分析しました。さらに、インド出身の別の先生がこの授業を教える際に示した、各大手多国籍企業や各国の市場に対する理解も非常に印象的でした。また、全ての授業の中、色んなプレゼンテーションがありますため、自分のグループワークとプレゼンテーションのスキルも向上しました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

このプログラムに参加する前は、こんなに多くの国から来た人々と英語で交流し、学ぶことができるかどうか自信がありませんでした。しかし、実際に授業が始まると、みんなの英語のレベルに関係なく、先生は非常に優しく対応して、授業の内容を理解するのを助けてくれました。一部の先生は話す速度を非常にゆっくりしてくれて、何度も理解できているかどうかを確認してくれました。また、英語が得意な人もネイティブスピーカーも、非常にやさしく英語でコミュニケーションをとってくれました。プログラムに参加したことで、自分の英語での会話力や、英語で授業を受けたり発表したりグループワークを行ったりする能力が大きく向上したと感じています。さらに、この 20 日間を通じて、異なる国や文化から来た人々との交流を通じて、文化や言語の壁を超えた貴重な国際的な友情を得ることができました。これが私にとって今回の一番の収穫です。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

日本で留学している留学生として、今後は三カ国語を話せるという利点を最大限に活用し、異なる国や文化での学びを通じて自分の国際的な視野を広げ、国際的に活躍する能力を鍛える同時に、異なる文化や社会の違いを感じることで、文化間の違いや衝突がある時にどのようにバランスを取るかを見つけ、異なる文化を持つ人々をつなげる能力を鍛えたいと思います。そして、国際貿易や多文化背景での企業経営について、より深く学び、コンフォートゾーンから抜け出し、さらなる挑戦と自己成長の機会を常に求めていきます。将来、国際ビジネスリーダーになることを目指して、これからも努力し続けます。